

【東京学芸大学】国際バカロレア日本語デュアルランゲージディプロマプログラム（日本語DP）の導入及び 導入後の課題に関する実践研究と普及促進活動

目的

資料4-1

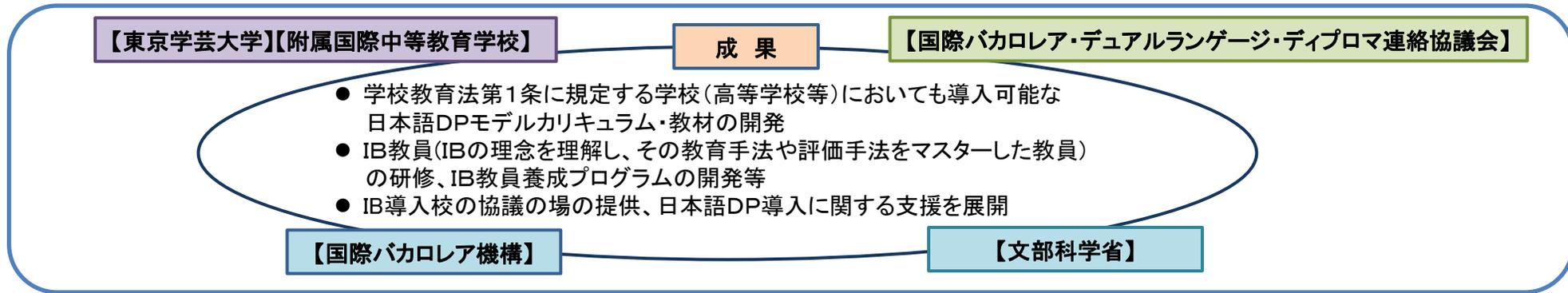
○国の施策への対応(グローバル人材育成の必要性・緊急性)

国際バカロレア認定校等の大幅な増加(「日本再興戦略—JAPAN is BACK—」(平成25年6月14日閣議決定)等政府の諸施策・提言等の実現に資する。

○「日本語DP」の実施・普及に向けて

日本語DPの開発・導入によるIB推進のため、実践的な調査研究や情報共有、文科省やIBO等との連絡調整に資する。

実施体制及び成果等



国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会の活動・成果、及び発展的な移行に向けて

【構成】

【構成員】

国際バカロレア教育の推進、特に日本語DPの導入に関心を有し、連絡協議会への参加を希望する高等学校及び中等教育学校等

- 76の高等学校・中等教育学校等が参加(H30.8.1現在)

【オブザーバー】

文部科学省、国際バカロレア教育の推進、特に日本語DPの導入に関心を有する教育委員会、大学その他の関係者等

- 79の教育委員会・大学等が参加(H30.8.1現在)

【活動実績】

- 平成25年5月28日：設立会合及びフォーラム開催
- 平成25年8月22日：第2回会合開催
平成26年3月26日：第3回会合開催
平成26年8月7日：第4回会合開催
- 平成27年度以降は、毎年8月に会合を開催し、現在までに計7回開催、文科省やIBO及び加盟校・団体(構成員及びオブザーバー)等との連絡調整及び情報共有の場を提供
- Webサイトやメールリストでの情報発信及び情報共有、各種相談への対応、ミニオリエンテーション実施等をとおして、日本語DP導入等に向けた支援を実施

【発展的な移行に向けて】

日本語DPをはじめとするIBの全般的な普及に係る活動を支える仕組みへ

【移行にあたって】

- 加盟校・団体へのコンソーシアム移行に係る説明について
- 加盟校・団体の引継ぎについて
- 連絡協議会ウェブサイトの扱いについて